

平成24年度「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」実績報告書

1. 事業名称

美容分野の専門人材の育成を支援する産学官連携コンソーシアムの組織

2. 事業実施期間

委託を受けた日(平成24年7月31日)～平成25年3月15日

3. 産学官連携コンソーシアム又は職域プロジェクトの別

産学官連携コンソーシアム

産学官連携コンソーシアム又は職域プロジェクトの名称

美容分野の専門人材の育成を支援する産学官連携コンソーシアムの組織

関係するコンソーシアムの名称(職域プロジェクトのみ記入)

4. 分野名

④クリエイティブ(コンテンツ、デザイン・ファッション等)

「その他」分野名

5. 代表機関

■ 代表法人

法人名	学校法人 メイ・ウシヤマ学園
理事長名	山中 祥弘
学校名	ハリウッドビューティ専門学校
所在地	〒 106-8541 東京都港区六本木6-4-1六本木ヒルズ ハリウッド プラザ

■ 事業責任者

省略

■ 事務担当者(文部科学省との連絡担当者)

省略

6. 産学官連携コンソーシアム又は職域プロジェクトの構成員・構成機関等

(1) 構成機関

	構成機関(学校・団体・機関等)の名称	役割等	都道府県名
1	学校法人メイ・ウシヤマ学園	主幹事	東京都
2	ハリウッドビューティ専門学校	全体支援	東京都
3	ハリウッド大学院大学	全体支援	東京都
4	ビューティビジネス学会	全体支援	東京都
5	公益社団法人東京都専修学校各種学校協会	全体支援	東京都

(2) 協力者等

氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
金 南希	ソウル総合芸術学校 客員教授	助言・評価	韓国
宋 英	ハリウッドビューティ専門学校 講師	助言・評価	東京都(韓国)
寺本 義也	経営研究所 所長	助言・評価	東京都
佐々木千加	元韓国又松大学校 准教授	助言・評価	東京都
温 明月	ハリウッド大学院大学 助教	助言・評価	東京都
張 芳茵	北京財貿職業大学 客員教授	助言・評価	中国(北京)
王 曉東	王珍妮美容サロン 代表	助言・評価	中国(瀋陽)
蔣 曼文	大雅国際形象造型顧問有限公司 代表	助言・評価	台湾
藪地 章子	桜美林大学大学院博士課程	助言・評価	東京都

(3) 産学官連携コンソーシアムの下部組織（設置した場合に記載。職域プロジェクトの場合は記入不要）

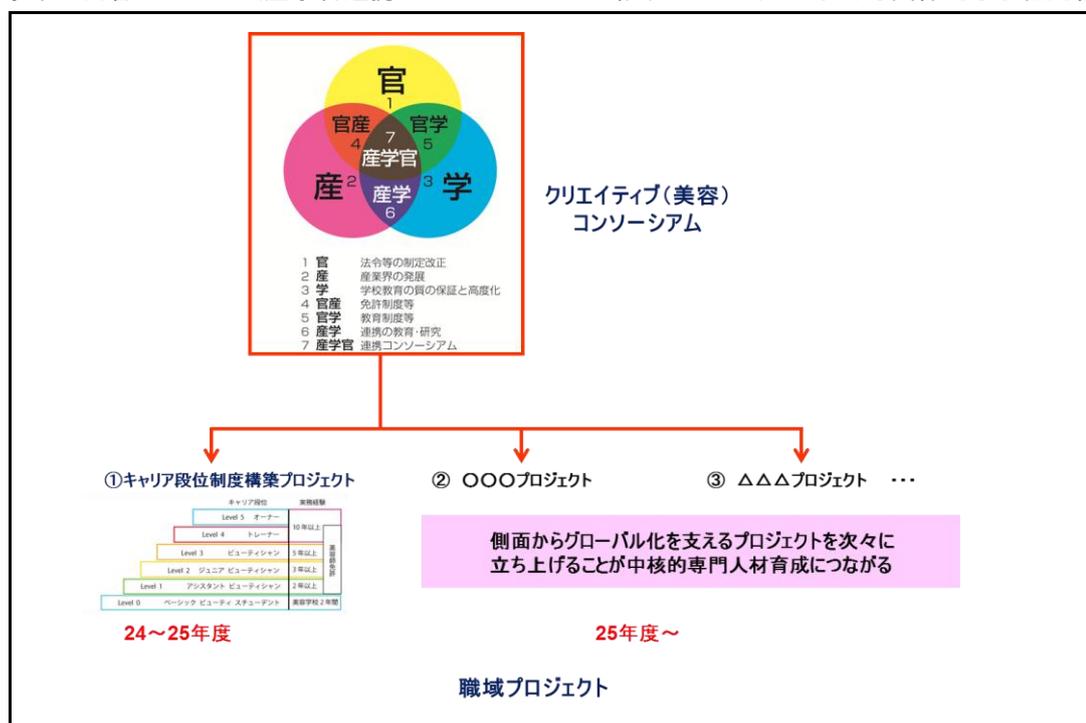
名称(調査分科会)			
氏名	所属・職名	役割等	都道府県名
川島 鋼太郎	学校法人メイ・ウシヤマ学園 国際交流室長	主査	東京都
長尾 明靖	長野理容美容専門学校 理事長	調査	長野県
片山 正勝	ミエ・ヘア・アーティストアカデミー 理事長	調査	東京都
川越 啓子	宮崎サザンビューティ美容専門学校 校長	調査	宮崎県
山形 正喜	山梨県美容専門学校 理事長	調査	山梨県
谷本 佳隆	大阪美容専門学校 副校長	調査	大阪府
金 南希	ソウル総合芸術学校 客員教授	調査	韓国
宋 英	ハリウッドビューティ専門学校 講師	調査	東京都(韓国)
張 芳茵	北京財貿職業大学 客員教授	調査	中国(北京)
蔣 曼文	大雅国際形象造型顧問有限公司 代表	調査	台湾

7. 事業の内容等

(1) 事業の概要

美容分野の専門人材育成を支援する産学官連携コンソーシアムを組織する。そこでは全国の美容専門学校、美容業界団体等が連携し、アジア地域等における国際的質保証を伴う教育のフレームワーク(段位制度)構築や人材育成プロジェクトを推進する。コンソーシアムではその推進に先だって方向性を検討するために必要な調査活動や推進過程で生じる共通課題を解決する検討を行うと共に、職域プロジェクトの評価・取りまとめを行う。

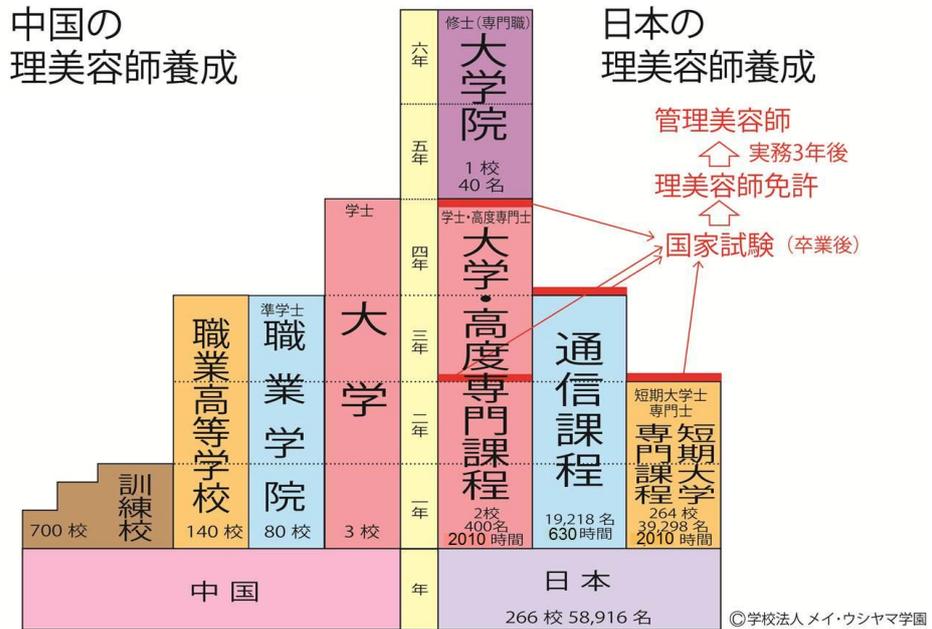
(2) 事業の内容について（産学官連携コンソーシアム又は職域プロジェクトにおける具体的な取組内容



本コンソーシアムでは、まず、美容師のためのアジア地域におけるフレームワーク(段位制度)の構築に向けて、海外も含めた美容教育・キャリア形成支援の実態調査・事例調査 (A)、及び、制度の全体像・フレームワーク形成のための調査(B)を行った。

A 海外も含めた美容教育・キャリア形成支援の実態調査・事例調査

①日本の美容教育制度をレビューした上で中国、韓国、台湾における美容教育の制度について調査し、日本の制度との比較・分析を行った。その結果例として日本と中国を比較した図を以下に示す。



②日本における美容師のためのキャリア形成支援となっている各種検定制度の実態や事例に関する調査を行った。具体的には、メイク、ネイル、エステの各領域に対応した全日本美容業生活衛生同業組合連合会(全美連)の検定制度や研修事例等を調査・整理した。

調査対象となった検定制度は次の5つである。

- (1) メイクアップディレクター検定
- (2) メイクアップアーティスト検定
- (3) ネイリスト検定
- (4) ジェルネイル検定
- (5) エステティックディレクター検定

次の図は一例として、メイクディレクター検定の概要について調査・整理したものである。

資格認定者	全日本美容業生活衛生同業組合連合会 (全美連)		
評価認定制度	全美連評価認定制度 (SBS: The Status of Beauty-ing Specialist)		
目的	消費者の要望に合ったメニューを、より高度なサービスとして提供するための必要な知識・技能を評価する制度。 評価という指標を設定することによって、お客様に信頼と安心を提供できると共に、既存顧客の客単価の向上や、新しいお客様を獲得する。		
対象者	美容師免許取得者		
資格レベル	指導者	指導講師	業界の指導者レベル (組合推薦)
		スーパーバイザー	業界の指導者レベル
	技術者	ディレクター1級	サロン指導者レベル
		ディレクター2級	サロン技術者レベル
ディレクター3級		美容学校卒業レベル	
美容学校との連携	全日本美容業生活衛生同業組合連合会 (全美連) の認定校の美容学校生が在学中に、3級レベルの研修プログラムを実施し、卒業後の免許取得時に資格認定している。		

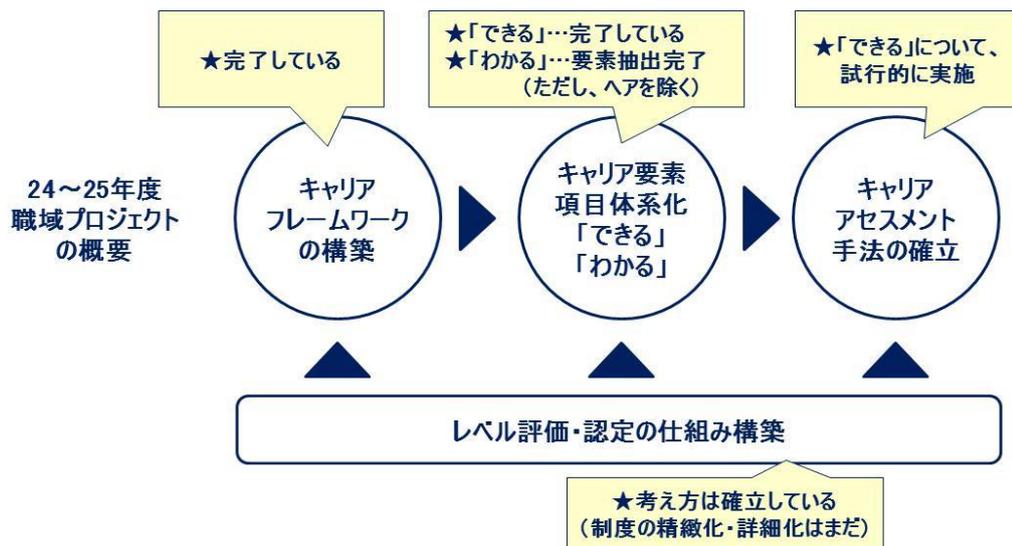
B 制度の全体像・フレームワーク形成のための調査

他の分野のキャリア段位制度、職業能力評価基準(中央職業能力開発協会)における類似職種
の基準等について、キャリア・フレームワークの構築、キャリア段位制度の設計等に役立つ情報を
得るための調査・分析を実施した。

その結果、昨年秋からスタートしているキャリア段位制度(介護プロフェッショナル、カーボンマネ
ジャー、食の6次産業化プロデューサー)には、美容師のレベル評価のフレームワーク構築に役立
つ考え方があることがわかった。すなわち、これらの制度に共通することは、キャリアについて「で
きる」と「わかる」の両面からとらえる考え方であった。美容師の場合も同様に、実践的スキル(でき
る)と知識(わかる)の両方が備わってはじめてキャリアであるという考え方が成り立つ。

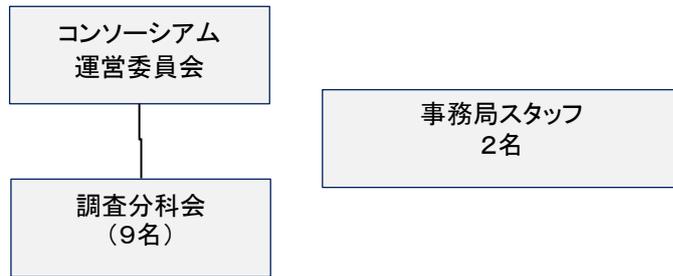
最後に、本コンソーシアムでは、職域プロジェクトの評価を行った。24年度の職域プロジェクトは
「美容師のためのキャリア・フレームワークと教育プログラムの構築およびその海外への普及」の
一つである。このプロジェクトは、本コンソーシアムの調査結果を受けて、美容師のためのレ
ベル評価のフレームワーク(キャリア段位制度)の構築を目指している。

その進捗状況等は、下図の吹き出し部分に示しているが、最上流の「キャリア・フレームワークの
構築」は終了している一方で、キャリア要素項目として「できる」「わかる」を評価できる体系化は道
半ばである。



(3) 事業実績について（連携体制、工程、普及方策、計画時に設定した活動指標(アウトプット)・成果実績(アウトカム)の評価等)

1) 連携体制



2) 工程表

実施項目等	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
コンソーシアム運営委員会				●		●		●		3回
調査分科会					●	●			●	3回
調査		→								
成果報告書取りまとめ						→				
成果報告会の実施									●	

■プロジェクト推進委員会

第1回:10月16日、第2回:12月12日、第3回:2月20日

■調査分科会

第1回:11月9日、第2回12月12日、第3回:2月20日

■成果報告会

3月6日

3) 普及方策

A 報告書の作成と配布

本事業の実施内容(キャリア段位制度、実証評価)を記録した報告書を作成し、全国の美容系専門学校、業界団体等に幅広く配布する予定である。

B 成果報告会の実施

平成25年3月6日に成果報告会を実施した。その際、美容系専門学校、業界団体等に案内を送り、幅広い参加を呼び掛けた。

C Webサイト上での公開

本校をはじめとして、実施協力校、関連団体・組織のWebサイトに、報告書の公開も含めて事業の実施内容を公開し、閲覧を促す予定である。

D 実施協力校、関連団体・組織を通じた周知

本事業の実施協力校、全美連・ビューティビジネス学会等の関連団体・組織を通じて成果の普及を図る予定である。

4) 期待される活動指標(アウトプット)・成果目標及び成果実績(アウトカム)等

A 活動指標

A-1 調査対象とした国々(日本以外)…中国、韓国、台湾の3つ

A-2 調査対象とした諸制度の数

・キャリア段位制度3つ

・検定制度5つ

B 成果評価の目標

B-1 調査内容の妥当性(各職域プロジェクトにとって有効なものとなっているか)

・本コンソーシアムにおける調査結果は職域プロジェクトにおいて、きわめて有効に活用している。

(4) 事業終了後の方針について(継続性、発展性 等)

A 継続性に関する方針

24年度事業の成果を踏まえ、25年度においては数多くの職域プロジェクトが実施できるように各方面に働き掛けていく。

B 発展性に関する方針

日本の美容教育の質の高さは世界一である。これを海外に発展させること、これが本コンソーシアムの大方針であり、その考え方を貫くことで、同じ志を持った学校が職域プロジェクトに手を挙げるような形を目指していきたい。